

# 運動クラブ

## サッカー部

大正十四年設立。当時はサッカーではなく「フ式蹴球」(フッソフエーション蹴球)と称した。この年、北大主催第三回全道中等学校大会に出場、惜くも小樽庁商に敗れた。(「学友会誌」第七号)

大正十五年 全道中等学校大会(参加校：函中、函商、札師、一中、二中、北中、札工)

札工(1-2) 札師

札工(3-4) 北大予科

札工(1-0) 北中

昭和二年「合宿便り」

「……目指す中等学校連盟大会を前には愈々緊張し練習は日を追って猛烈を加へて来ました。…学期末の試験が終えて開放された小島の如く学友のすべてが思い／＼の故山へ喜びの微笑を浮べて帰省を急ぐ時、私達十三人は「三星館」にとどまって合宿練習に入りました。札工蹴球部のためまた札工健児四百のため沈黙裡に心に何物かを蓄っていたのです。或る夕べアカンヤ並木を故郷へ向って走り行く汽笛を聞く時悲哀と懐郷の念とを禁じ得ませんでした。しかし私達のハートは雪辱の焰に燃えておりました。再び敗れた歴史をふり返った時、懐郷の念は Devil となって現れました。ただでさえ苦しい三伏の暑さに血に飢えた蕃人の如く、雪

大正後期のサッカー部



辱”のえきに向って突進し汗と努力に彩られたユニホームをまとい必死的練習を続けました。(「学友会誌」第九号)

昭和三年合宿練習プラン

午前五時起床 直ちにホームグラウンドにおいて一時間練習

午前六時半 朝食

〃 十時迄 休養

〃 十時―十二時 練習

十二時 昼食

午後二時迄 休養

〃 二時―三時半 練習

〃 四時 夕食

〃 七時迄 休養

〃 六時―八時半 練習

〃 九時半 就寝

合宿所 本校

練習方法

① グランド一周

② 百メートル

③ バス(次第に大きくなる)

④ ラウンドキック

⑤ シュート

⑥ ヘッディング

⑦ グランド一周

⑧ 巾跳び、高跳び

午後からコーチを受けに北大旧グラウンドに行く。「学友会誌」第十号

昭和十二年ごろからの戦争への歩みの中で、やがて武道重視の傾向を生じ、サッカー熱も次第に衰えていったのであったが、本校においても空白期がし

ばらく続いた。

昭和二十五年、校名変更となり「札幌伏見高等学校」となる。

この年、建築科二年が主体となり、野球部、相撲部などの寄せ集めのメンバーで「第四回全国高校選手権道予選」に初出場。わずか十日たらずの練習、しかも急編成のチームであったので敗れ去ったけれども終始好ゲームを展開、西角(建二相撲部)のプレーが、きわ目立った。

二回戦 室工(5-1) 伏見高

(「伏見高新聞」第五号)

昭和二十六年、部員二十数名で正式に再発足。

春季市内高校選手権大会(参加校六

校)

三位決定戦

伏見校(1-0) 東高

全国高校選手権地区予選

北海(6-0) 伏見高

伏見高(3-1) 北高

伏見高(2-1) 西高

(この結果二位となり道大会へ)

全国高校選手権道大会

一回戦

紋別高(2-1) 伏見高

(「伏見高新聞」第九・十二号)

昭和二十八年九月四・五日

国民体育大会札幌地区予選

準々決勝 伏見高(5-0) 東高

準決勝 北海(7-0) 伏見高